

乳幼児の啼泣の研究

長野県保育専門学院 伊藤京子

竹村計美
山崎紀美子

泣くことは不決の情緒の表現であり言語の未発達のものにおいては言語の表現であると言われているが、年令による変移及びその泣き方について心理・病理について調査してみた。啼泣を研究して不決の情緒より快の情緒に転換して保育の実際の参考にするために行ったものである。

(1)、新入園児の登園時の啼泣について

(2)、小児科外来児の啼泣について

1、長野県保育専門学院付属実習室

三五年四月入園時一才より五才まで三三名について午前八時より九時三〇分まで調査した。期間は四月一四日より

その結果一才児は七名全員泣いた。早く泣かなくなったもの三名は七、八日目、これは全部男の子。他の四名は泣かなくなるまでに二五日から三七日を要した。これは全部女の子。

二才児は九名、内四名は全然泣かなかつたが、この子達はそれぞれ兄や姉が同じ園に来ているため一緒にいたものである。四名は一二日までに泣きやんだが、一名は三四日を要した。この子どもは女の子で家は商業を営なみ上位の生活をしている。長子であり妹が三月一八日に生まれた。あまやかされて育ち環境に対して順応がおそかつたのであろうと思う。

泣きやんだ時は親せきの四才の子に手をつながせた時であつた。

た。

三才児は九名、うち六名は全然泣かなかつた。この子どもは兄や姉が卒業しているか同じ園にいるため過去において何らかの形でこの園へ来た経験がある。

泣いたもの三名は九日までに泣きやみ、内ひとり子が二名である。四才児四名、全然泣かず。五才児四名、全然泣かず。

この調査の結果では生活状態、続柄(長子 末子 ひとりっ子)などに直接関係づけるのは困難で、なれということと年令的要素が一番関係していたように思われる。

2、小児科外来児三八五名について三五年七月一九日より二六日まで午前九時より正午まで調査した。

泣く事の原因は病気の種類及び軽重にも関係あると思われるが、今回は一方的に年令のみに対して調査してみた。やはり一才児が最高に泣いていることがわかった。年令が進むに従い泣かなくなり注射などとしても、じっとがまんしている様子が見られた。

年長児においてよく泣く子に対する調査及び病類別、病気の軽重などに対する泣き方などについて今後研究を進めていこうと思つている。

新しい場面へぶつかつての恐怖心、感情情緒の不安定、不快の情緒のあらわれなどが年令の小さいものにおいては泣くということによつて表現されており、また、泣くことはなれということと年令的要素が一番関係しているように思われる。家を出る時は元気で、登園してきて幼稚園の玄関へ入ると、付き添いの手をしっかりとつかんで離れようとしなしい、めそめそ泣き出す子ども、通称泣き虫と言われている子どもの治療に役立てようと思う。